

2020年 第1回 AMED 江川班「遺伝子関連情報を基軸にした効率的免疫抑制管理による
革新的長期管理ロジック開発」 班会議 議事録（案）

日時：2020年8月14日（金）17時00分～18時50分

場所：ZOOMによるweb会議

参加者（研究分担者）：佐藤 滋、湯澤賢治、大段秀樹（田中友加）、中川 健、小野 稔、
布田伸一、手良向 聡、笠原群生、蔵満 薫

参加者（研究参加者）：吉川美喜子

参加者（EPクルーズ）：佐藤 恒

AMED担当者（小南太郎）

PS；山口照英（日本薬科大学）

PO；祝迫恵子（同志社大学再生医学研究室）、大橋一輝（都立駒込病院）、前田優香（国がん）、
和田はるか（北海道大学遺伝子病制御学）

オブザーバー：吉屋匠平（厚生労働省）

欠席者：阪本靖介

- （1） 班長挨拶
- （2） 厚労省挨拶
- （3） 参加者自己紹介
- （4） 研究内容説明

江川班長より資料1に基づき説明

- （5） 進捗状況

1） 江川班長より進捗について説明

2） 湯澤班員より進捗について説明（資料5-2）

山口 PS；HLA 抗体が陽性であっても治療されていないケースが結構あるという理解で良いか？治療の必要がないのか、リツキサンをを使うハードルが高いのか？

湯澤班員；抗体陽性になる方はそんなにいない。さらに生検で AMR が認められ治療介入される患者さんも少ない。

江川班長；施設によって抗体陽性率は異なる。女子医大の腎移植患者では年間3割が陽性になる。そのデータをもとに術後抗体測定の実施が可能となった。ただし生検を行い所見があった場合のみ IVIG や免疫抑制剤の投与量調整といった治療を行う。肝臓であれば女子医大では3～5%の患者さんで抗体が陽性となる。免疫抑制剤の量によっても抗体陽性率は異なる。施設によって陽性率が異なるので、全国でのデータを明らかにしたい。

山口 PS；その辺りの標準化も本研究には含まれるのか？

江川班長；ガイドラインの第2班に日本の現状を組み込もうと考えている。

3） 大段班員より進捗について説明

中川班員；保険収載の上で、今後は先進医療で申請を進めるのか。

大段班員；その方向で考えている。

田中班員；拒絶と関係がありそうな T 細胞系の因子が明らかとなっていており、今後 kit 化を考えている。倫理委員会は現在広島大学で申請中。

4) 布田班員より進捗について説明

中川班員；内分泌外科（副腎腫瘍）を行っている経験から、内科医からの feedback がなくなると外科医の motivation がなくなるので、内科医を育成すると同時に内科医から外科医への feedback も行って欲しい。

(6) 課題

1) 情報収集スケジュール

江川班長；抗体の検査について当初は 1 次調査のみを考えていたが、本日のプレゼンを聞いていると 2 次調査も含めたく、予算や研究期間を踏まえて今後考えたい。

佐藤班員；2 次調査は是非とも行って欲しい。

2) 心臓症例保管

江川班長；心臓の方で 100 例検体協力予定であった施設から、倫理委員会との調整がうまくいかず検体数が欠損することとなった。現在個別で同意を得ているが、10 検体ほどしか集まっていない。女子医大での 50 名の心臓移植患者さんのサンプルを追加できるよう倫理委員会の申請を行っている。東大にも協力いただけないか。

小野班員；東大では 160 名の患者を診察している。問題は東大の遺伝子関係の倫理委員会がかなりシビアで半年くらいかかる。担当者に motivation がないと厳しい。

江川班長；motivation は、当該施設のデータは当該施設から paper にして構わないという academic な部分。

田中班員；サンプルとしては、末梢血から DNA を抽出している。

小野班員；倫理申請するのであれば、主幹施設が通った後で内科の先生に依頼するしかない。今後個別に相談させていただきたい。

3) コロナ禍で学会参加が困難となっている。

4) 倫理委員会での審査費用について

江川班長；女子医大でも倫理委員会 1 回審査で 3 万円かかるようになった。審査費用を協力施設に対し主幹施設が払うことは可能か。

AMED；確認するがおそらく無理。新たに分担者になっていただく方が良い。

祝迫 PO；AMED が了と言っても、大学の経理が OK を言わなければ了とはならないので、先に各大学が確認した方が良い。

(7) PSPO からのコメント

山口 PS；移植内科医の育成について、期待している。様々な学会と共同で研究会を立ち上げると研究計画書には記載されているが、AMED の研究期間は 3 年間。その後の継続性はどうか。

江川班長；この研究自体、応募のために考えた課題ではない。したがって本研究期間が AMED で終了した後も移植学会が責任を持ってバックアップする。

山口 PS；本来ではこのようにして立ち上がった研究会を継続する研究費もあったら良いと考えるが、是非頑張って欲しい。

岩迫 PO；抗体関連、移植内科医について期待している。この班でしかこれだけの数の臨床検体を集めて研究できないと考えているので、頑張って欲しい。

大橋 PO；特にコメントなし。

前田 PO；DNA サンプルは、バルクのまま DNA を採取しているのか、CD4/CD8T 細胞等の lineage で採取されているのか。

田中班員；血液細胞のバルクで DNA を採取している。

前田 PO；シークスエンスで免疫細胞における PD1 の働きも異なるので、lineage を分けて PD1 発現等についても検討していただければと思う。

田中班員；大段班の附随研究で PD1-SNP とリンパ球 lineage での PD-1 発現について検討を実施しているので、結果が出れば江川班でも共有したい。

和田 PO；身近に AMR が起こった際に外科医が頑張って治療しているのを見ているので、是非ともこの研究班で頑張って欲しい。

(8) 事務連絡

研究用の契約については現在女子医大の事務が進めている。

以上